

第 29 回シンポジウム「高齢社会を共に生きる」の

実践報告要旨

「地域包括支援センターを基盤とした『地域包括ケア』推進のための新しいコミュニティづくり事業—子供から高齢者まで、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり事業—」

西島 善久（社会福祉法人玉美福祉会副理事長）

東大阪市花園中学校区・地域包括ケアシステムを構築するために、地域包括支援センター向日葵を基盤とした地域包括ケア推進の拠点づくりと地域の福祉人材を育て、専門職間による公助の支援ネットワークの充実や共助の連携を目指し人の助け合いや災害にも強い町づくりに繋がるためのコーディネートやマネジメントを実践した。

「住民主体の傾聴・見守りのしくみづくり—大槌町仮設団地での福祉コミュニティ形成事業」

林田 昭子（NPO法人鷹ロコ・ネットワーク大楽理事長）

東京の NPO 法人が東日本大震災被災地の岩手県大槌町で1年9ヶ月かけて仮設団地での学習講座、福祉施設での研修を積み重ねて、住民主体の傾聴ボランティア団体を結成した。そして、町社協や東北地方の傾聴ボランティア団体とのネットワークも形成することにより住民自身による傾聴や見守りを実施できるまでにコーディネートした。

「高齢者の知恵と経験が創る島おこし」

前泊 博美（NPO法人いけま福祉支援センター理事長）

当 NPO 法人の活動目的は、コミュニティの再構築であり、その中に高齢者の活躍の場を創出することである。その実現へ向け、高齢者の生きる知恵や経験を次世代へひき繋ぐ「アマイ・ウムクトゥ」事業を展開してきた。聞き書き等の記録、「シマ学校」開校、さらに、在来作物の復活、雑魚の販路開拓、暮らし資料館の準備など進めている